

11月中旬の長野県の公表まで
非公開

令和5年度 全国学力・学習状況調査

長野市の結果分析と 学力向上に向けて



第三期しなのきプラン 全体イメージ図

令和5年11月

長野市教育委員会

目 次

I 調査概要	1
1 調査内容	
2 集計対象	
II 教科・調査別結果の概要	
1 教科に関する調査の結果概要	1
(1)小学校	
(2)中学校	
2 質問紙調査の結果概要	4
(1)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の状況	
(2)国語の現状	
(3)算数・数学の現状	
(4)英語の現状	
(5)各教科による具体的な改善策	
3 令和4年度授業改善のポイント・令和5年度の授業改善の提案	7
III 本調査から見た「第三期しなのきプラン」の現状	8
1 知・徳・体を一体的に育成	
2 教職員の力量向上	
3 安全安心な学校づくりの推進	
4 GIGA スクール構想の推進	
5 学校間の連携、地域・家庭・事業所との協働と分担	
6 「第三期しなのきプラン」に照らした具体的な本年度の方向	
IV 総括	12

I 調査概要

1 調査内容

- (1) 教科に関する調査
 - ・令和5年4月18日(火)実施
 - ・小学校:国語、算数
 - ・中学校:国語、数学、英語(英語は3年に一度程度の実施)
- (2) 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査



2 集計対象

市立小学校6年生 54校 2,858人
 市立中学校3年生 24校 2,693人
 ※ 集計人数は、国語の実施人数を記載しています。

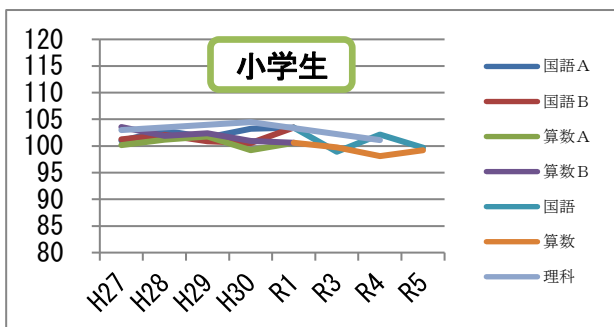
II 教科・調査別結果の概要

1 教科に関する調査の結果概要

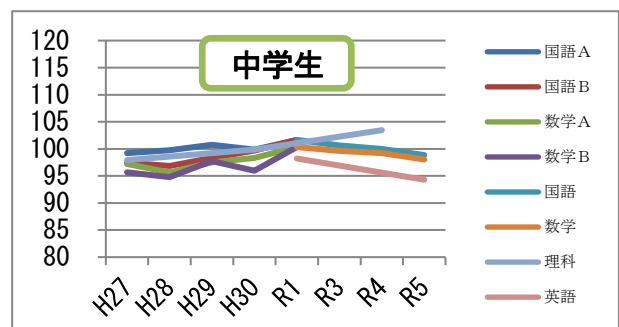
	小学生			本市及び長野県、全国の正答率(%)			中学生				
	長野市	長野県	全国		長野市	長野県	全国		長野市	長野県	全国
国語	67	66	67.2	国語	69	69	69.8				
算数	62	61	62.5	数学	50	50	51.0				
				英語	43	43	45.6				

全国の正答率を100とした場合の、本市の結果の推移(国語、算数・数学、英語)

※令和元年度から「知識A」と「活用B」を一体的に問う問題形式で実施



国語は下降したものの、全国の正答率と同程度となっています。算数は、昨年度より上昇し、全国の正答率と同程度となりました。

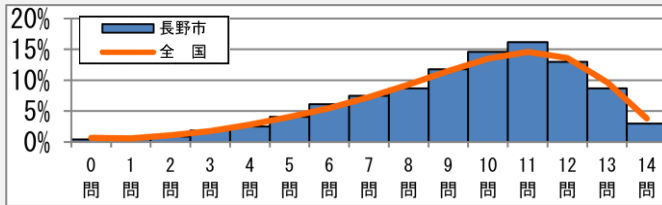


国語、数学は、全国の正答率と同程度となっています。英語は、前回実施した令和元年度の調査から下降しました。

(1) 小学校

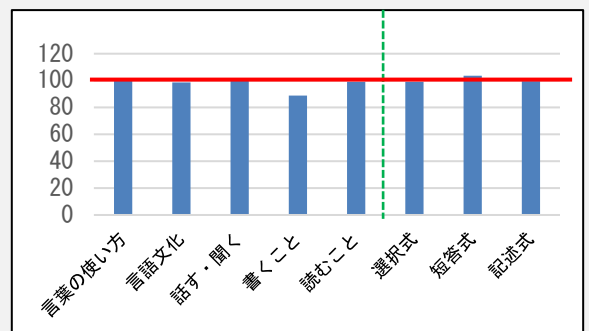
国語

【正答数分布】



- 正答率 40%以下 (0~5問正解) の生徒の割合
全国 11.1% 長野市 10.4%
- 正答率 80%以上 (12~14問正解) の生徒の割合
全国 27.1% 長野市 24.7%

【領域・問題形式別グラフ】 全国:100

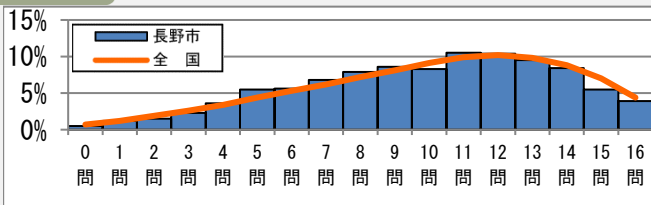


【領域・問題形式別の結果】

- ◇「書くこと」が全国の正答率より下回っていますが、他の領域は、全国の正答率と同程度、または上回っています。
- ◇問題形式別では、「短答式」が全国の正答率を上回り、他の形式は、全国と同程度となっています。

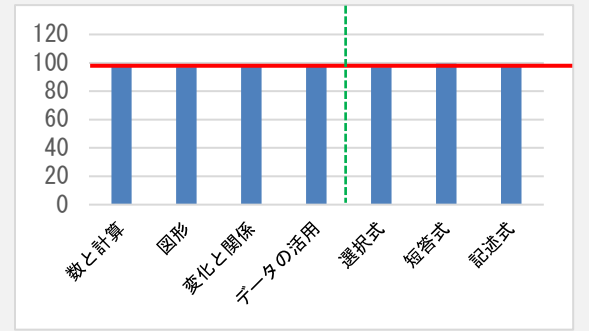
算数

【正答数分布】



- 正答率 40%以下 (0~6問正解) の生徒の割合
全国 19.5% 長野市 20.2%
- 正答率 80%以上 (13~16問正解) の生徒の割合
全国 30.0% 長野市 27.3%

【領域・問題形式別グラフ】 全国:100



【領域・問題形式別の結果】

- ◇全ての領域で、概ね全国の正答率と同程度です。「数と計算」と「変化と関係」は、昨年度から向上しています。
- ◇問題形式別は、概ね全国の正答率と同程度です。「短答式」は、昨年度から向上しています。

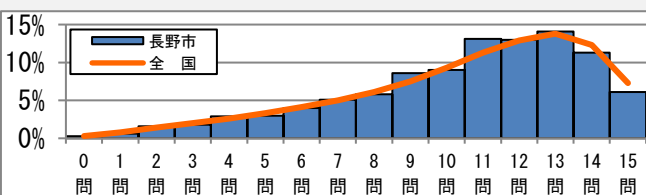
小学校の傾向から

- 国語、算数ともに、正答数 40%以下の児童の割合は、全国とほぼ同程度です。正答率 80%以上の割合は、2~3ポイント程度下回っています。
- 問題形式別では、どちらの教科も「短答式」で全国と同程度、または、全国を上回っており、前回調査からの向上が見られます。

(2) 中学校

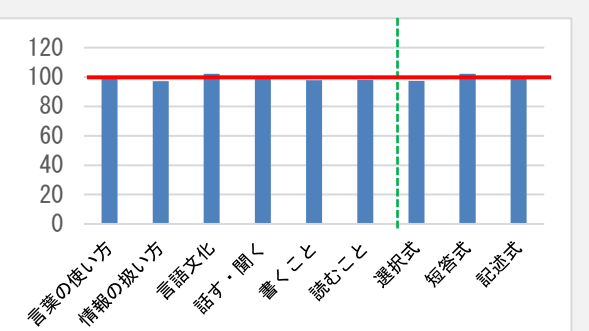
国語

【正答数分布】



- 正答率 40%以下 (0~6問正解) の生徒の割合
全国 14.5% 長野市 14.2%
- 正答率 80%以上 (12~15問正解) の生徒の割合
全国 46.3% 長野市 44.5%

【領域・問題形式別グラフ】 全国:100

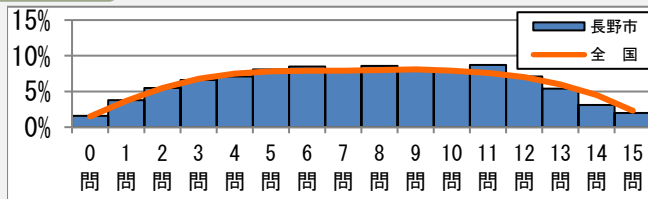


【領域・問題形式別の結果】

- ◇領域別では、概ね全国の正答率と同程度です。「我が国の言語文化に関する事項」は、他の領域より正答率が高いです。
- ◇問題形式別では、「短答式」において、他の形式より正答率が高いです。

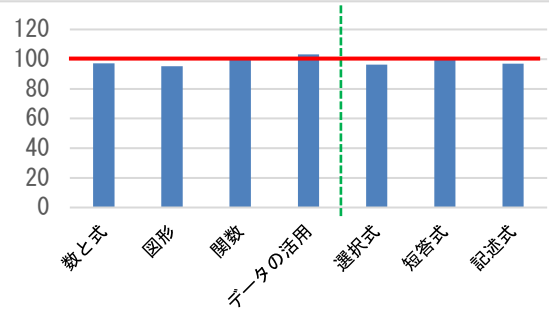
数学

【正答数分布】



- 正答率 40%以下 (0~6 問正解) の生徒の割合
全国 40.7% 長野市 41.2%
- 正答率 80%以上 (12~15 問正解) の生徒の割合
全国 19.8% 長野市 17.6%

【領域・問題形式別グラフ】 全国：100

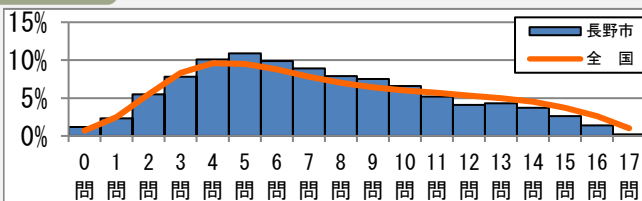


【領域・問題形式別の結果】

- ◇領域別では、概ね全国の正答率と同程度です。「データの活用」については、他の領域より正答率が高いです。
- ◇問題形式別では、全ての形式で全国の正答率と同程度です。

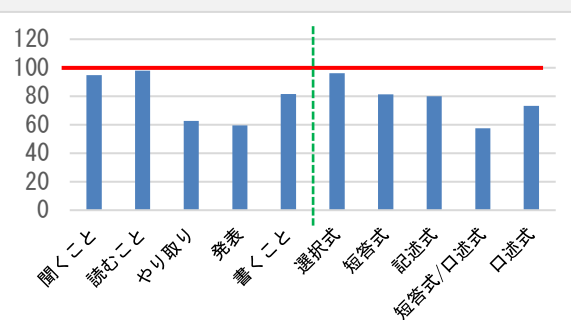
英語

【正答数分布】



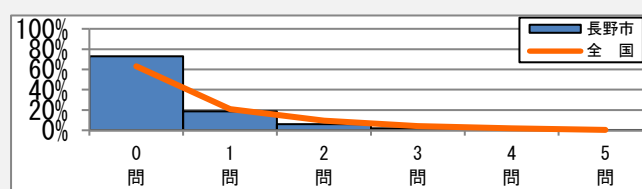
- 正答率 40%以下 (0~6 問正解) の生徒の割合
全国 44.9% 長野市 47.7%
- 正答率 80%以上 (14~17 問正解) の生徒の割合
全国 11.8% 長野市 7.9%

【領域・問題形式別グラフ】 全国：100



英語 (話すこと)

【正答数分布】



【領域・問題形式別の結果】

- ◇話すことについて (やり取り・発表) は、他の領域より正答率が低く、無解答率が高い傾向が見られます。
- ◇問題形式別では、特に「口述式」が全国の正答率を下回っています。

中学校の傾向から

- 国語では、正答率が 40%以下の生徒の割合が全国より低く、いずれの教科も正答率が 80%以上の生徒の割合が全国より低くなっています。
- 他教科と比べて英語では、領域・問題形式別に課題が見られます。

小・中学校ともに、国語、算数・数学については、概ね全国並みの結果となっているため、引き続き、「自学自習の資質能力の伸張」を目指し、授業改善を積み重ねていきます。

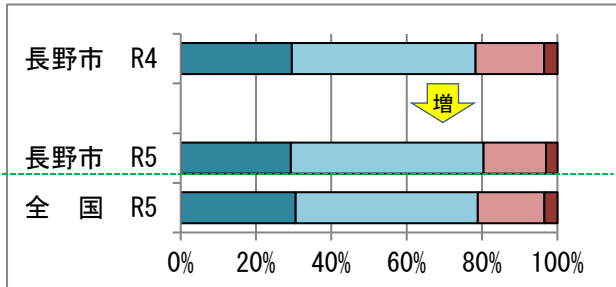
★英語については今年度より導入した GTEC を活用し、検査の事前事後に教職員研修を行ったり、授業改善に努めたりすることを通して、「聞くこと」・「読むこと」・「話すこと」・「書くこと」の4技能をバランスよく育成していきます。

2 質問紙調査の結果概要

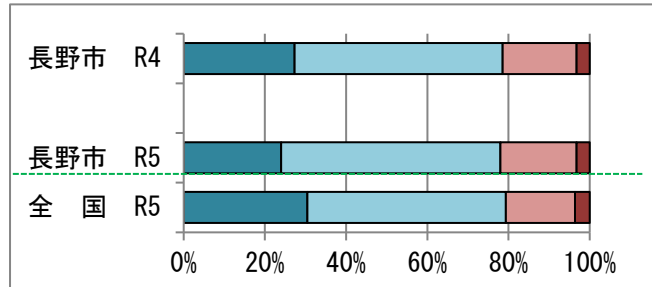
(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の状況(児童生徒質問紙調査から)

① 5年生(中学校 1,2年生)のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか【児童生徒質問紙(33)・(37)】

小学校

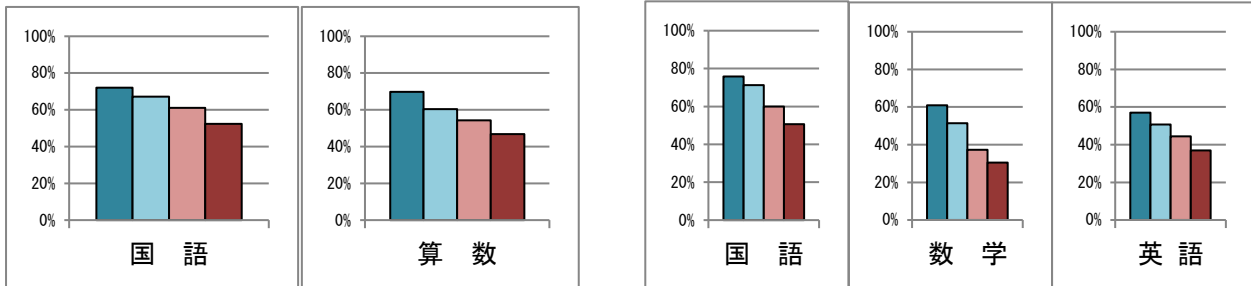


中学校



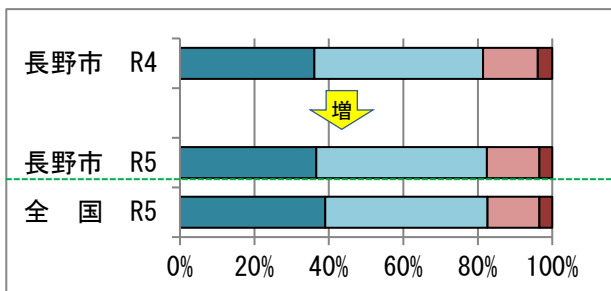
■ 当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまる ■ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない

上記質問に対する回答別の平均正答率との関係(収集計)

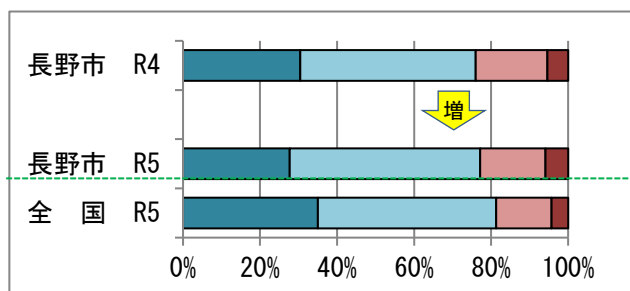


② 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか【児童生徒質問紙(36)・(40)】

小学校

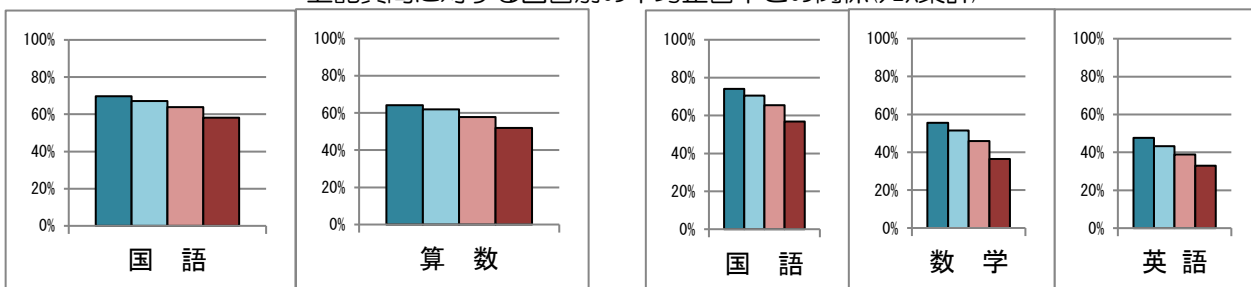


中学校



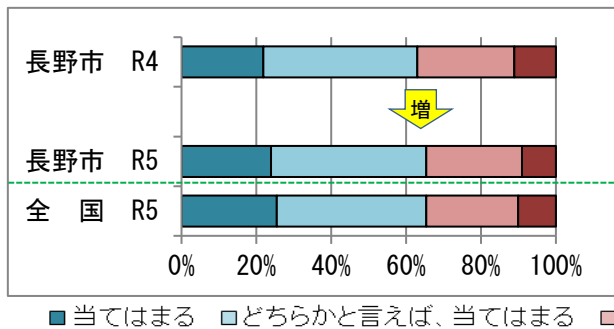
■ 当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまる ■ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない

上記質問に対する回答別の平均正答率との関係(収集計)

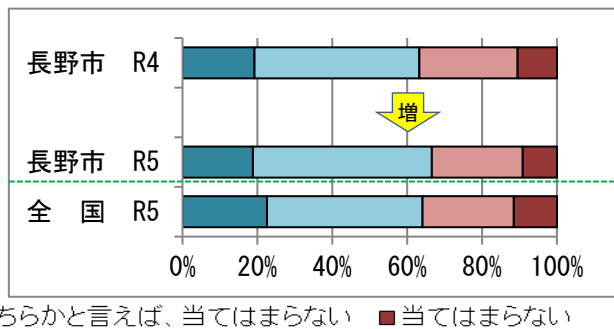


③ 5年生(中学校 1, 2年生)までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか【児童生徒質問紙(32)・(36)】

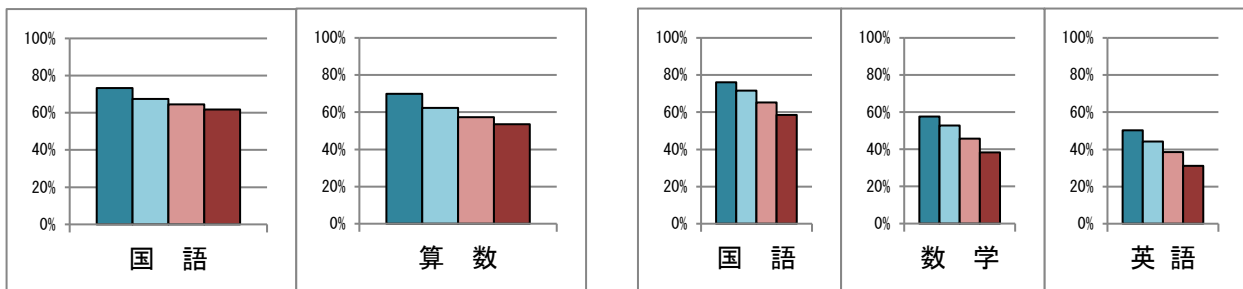
小学校



中学校



上記質問に対する回答別の平均正答率との関係(クロス集計)



○全体的に小学校と中学校ともに、肯定的回答（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）の割合が、増加傾向にあります。また、肯定的な回答と平均正答率とのクロス集計から、小学校では、わずかに見られた相関関係が、中学校になると大きく表れてきます。

これらの結果より

対話を通して

★友と意見を共有しながら、深い学びに繋がる協働的な学びの充実 (②、③より)

★探究的な学びの場を設定し、学びの質を高める授業改善 (①、③より)

★教科以外の場面でも、子ども同士の関わり合いを大切に、安心して自分らしく過ごせる『人間関係作り』 (①、②、③より)

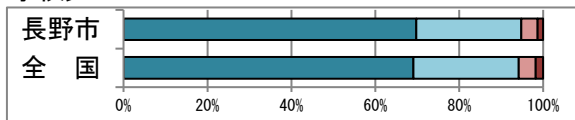
を行い、より充実した教育活動を進めていきます。

(2) 国語の現状

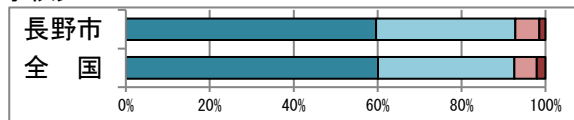
児童生徒質問紙調査の状況 ■ 当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小(44)・中(48) 国語の勉強は大切だと思いますか

[小学校]

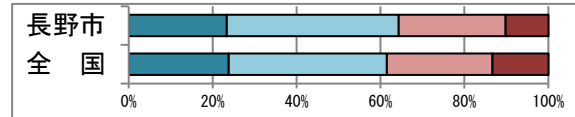


[中学校]

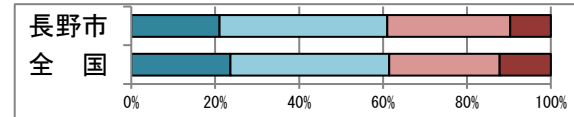


小(43)・中(47) 国語の授業は好きですか

[小学校]



[中学校]

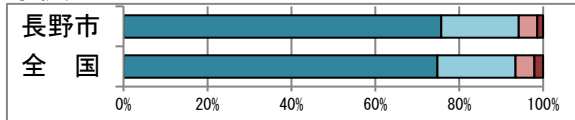


(3) 算数・数学の現状

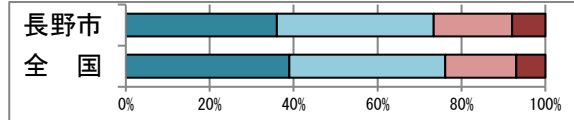
児童生徒質問紙調査の状況 ■ 当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小(54)・中(58) 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

[小学校]

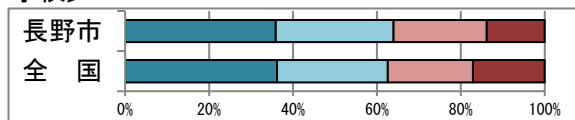


[中学校]

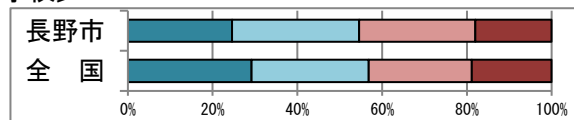


小(51)・中(55) 算数・数学の勉強は好きですか

[小学校]



[中学校]

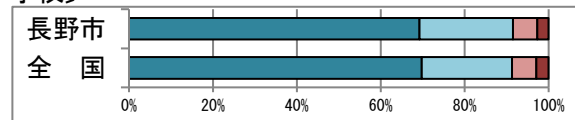


(4) 英語の現状

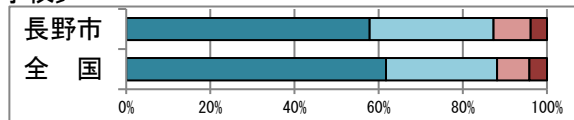
児童生徒質問紙調査の状況 ■ 当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小(56)・中(60) 英語の勉強は大切だと思いますか

[小学校]

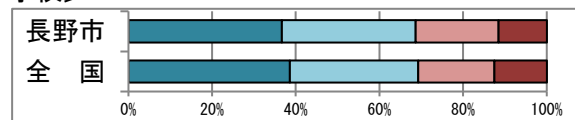


[中学校]

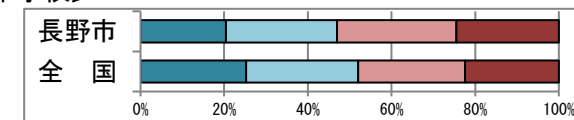


小(55)・中(61) 英語の勉強は好きですか

[小学校]



[中学校]



(5)各教科による具体的な改善策

どの教科もそれぞれの勉強が大切だと思っていたり、役立つと感じていたりしている児童生徒の割合が90%前後であるのに対し、勉強が好きな児童生徒の割合は、50%~60%程度となっています。この差を解消するために以下のような授業改善を大切にしていきます。

★国語

→個に応じて設定した課題を友との対話を通して追究する機会を作ったり、児童・生徒が言葉による見方・考え方を働かせて追究したりする。

★算数・数学

→児童生徒の「問い」を大切にし、探究的な学びを展開したり、様々な考え方ができる場面設定を基に対話を通して考えを共有したりする活動を仕組んでいく。

★英語

→簡単な語句や基本的な表現などを用いながら、他者と互いに考えや気持ちを伝え合える環境づくりを行い、コミュニケーションの楽しさを味わったり、伝え合えた達成感や充実感を実感できたりする授業を行う。

➤これらの活動により、子どもたちがそれぞれの教科の楽しさを感じられ、学習意欲を高めていけると考えます。

3 令和4年度 授業改善のポイント・令和5年度 授業改善の提案

○令和4年度 授業改善のポイント

- ・場面や日常の中から、問題や課題を見いだす
- ・複数の情報を見比べたり結び付けたりしながら読み取る
- ・学んだことを日常的に活用する

その結果

- 国語と算数・数学の結果が全国平均と同程度であり、小学校では県平均を上回る結果にある
- 質問紙調査の「主体的・対話的で深い学び」に係る肯定的回答が向上するとともに、肯定的回答をした児童生徒の平均正答率が高い傾向にある

○令和5年度 授業改善の提案

対話を通して

- ★友と意見を共有しながら、深い学びに繋がる協働的な学びの充実
- ★探究的な学びの場を設定し、学びの質を高める授業改善
- ★教科以外の場面でも、子ども同士の関わり合いを大切にし、安心して自分らしく過ごせる『人間関係作り』
- ※英語においてはGTECを実施し、4技能をバランスよく育成

Ⅲ 本調査から見た「第三期しなのきプラン」の現状

長野市では、平成27年4月に、「しなのきプラン29」を9ヵ年計画の第一期の3ヵ年計画として策定しました。そして、令和3年4月から、「第三期しなのきプラン」を実施しています。

第三期しなのきプラン

長野市教育の基本理念である「明日を拓く豊かな人間性の実現」に向け、教職員の力量の向上を教育活動の基盤と考え、学校、地域、家庭、事業所等の協働と分担の中で、「知・徳・体」を一体的に育成し、すべての子どもたちに「自学自習の資質能力」が育まれるための支援を行います。

図 自学自習の資質能力

【自学自習の願う姿】

- 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けようとする子ども
- 生活体験や興味・関心から課題を見付け、自分なりに方法を選択し、他者と協働しながら、見通しをもって解決に取り組む子ども
- 自分の生活体験や学習の状況を振り返り、新たな見通しを立てる、新たなやり方を見出す、自ら学び直しや発展的な学習をするなど生活や学習を調整し、自己肯定感・自己有用感を実感していく子ども

「自学自習の資質能力」は、左図のように学齢期をとおして、一人一人の子どもの中に見だし・支え・育みたい姿を、「自学自習」の姿を中核に据えて整理したものです。

ここでは、質問紙調査を基に、「第三期しなのきプラン」の現状を分析します。

- ・取り上げた質問項目は、「第三期しなのきプラン」の評価指標としているものか、評価する上で有効と思われるものを掲載しました。
- ・表中の値は、全国を100としたときの、長野市の肯定的な回答(「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合計)の数値を示しています。()内の数値は令和4年度の結果
- ・全国を100に対して、95～105は青、106以上は紺の塗りつぶしとして表しています。

1 知・徳・体を一体的に育成

児童生徒質問紙から、上記の「自学自習の資質能力」に関わるものを抽出して集計しました。

番号	質問事項		小学校	中学校	
(4)	自学自習	自分には、よいところがあると思いますか	102 (100)	98 (101)	
(16)		家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	107 (104)	96 (102)	
小(33) 中(37)		授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	102 (101)	98 (99)	
小(37) 中(41)		学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	102 (103)	97 (99)	
小(34) 中(38)		授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	104	96	
(13)	思考・判断・表現	コミュニケーション	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	103 (101)	93 (94)
小(36) 中(40)			学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	100 (100)	94 (94)
小(42) 中(46)			道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	100 (101)	97 (98)
(9)	規範意識	道徳性	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	100 (100)	101 (100)
(8)			人が困っているときは、進んで助けていますか	100 (100)	98 (100)
小(26) 中(30)	関わり	社会生活との	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	106	105
(11)			人の役に立つ人間になりたいと思いますか	100	100
(7)	自主・自律・自立		将来の夢や目標を持っていますか	101 (100)	97 (99)
(10)			困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	109	106
(15)	健康な心と体		普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	101	98
(1)			朝食を毎日食べていますか	102 (102)	103 (103)
(2)			毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	105 (104)	105 (102)
(14)	協同性	協働性	友達関係に満足していますか	99	97
小(40) 中(44)			あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	96 (97)	91 (94)

○「自学自習」に係る質問より

小・中学校では、主体的に学習に取り組み、見通しを持って自ら学び進められるような指導を重ねたことが成果に繋がっていると考えます。学びを振り返る場面では、児童生徒の成長を認め、今後の学習への意欲を高めるような指導が今後も大切だと考えます。

○「コミュニケーション」に係る質問より

中学校においては、全国を下回る傾向が見られます。生徒同士や多様な他者との対話や関わり合いを大切にしながら、より多くの考えや意見を共有して、深い学びにつなげていくことが大切だと考えます。

○「社会生活との関わり」に係る質問より

地域社会へ貢献意識が高い児童生徒が多く見られます。引き続き、地域や学校、児童生徒の実態に応じた総合的な学習の時間やカリキュラム・マネジメントの充実を大切にしていきます。

○「自主・自律・自立」に係る質問より

小・中学校では、相談できる体制や環境が整ってきたため、上昇傾向にあります。よいと思うことを主体的に諦めずにやり遂げる子どもの育成が今後も大切だと考えます。

○「協働性・協同性」に係る質問より

対話活動を通した子ども同士の関わり合いの場面を多く設定し、一人一人が大切にされ、互いに認め合える人間関係、学校作りが大切だと考えます。

2 教職員の力量向上

学校質問紙から教職員の「カリキュラム・マネジメント力の伸張」に関わるものを集計しました。

番号	質問事項	小学校	中学校
(19)	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	96 (96)	105 (98)
(20)	指導計画作成に当たっては、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外的資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている	99 (102)	104 (96)
(24)	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)	106 (104)	108 (120)

○全国学力学習状況調査などの諸調査の分析結果やしなのき児童生徒アンケートを基にしながら授業改善に向けて提案していきます。

○小学校と中学校ともに、研修に対して前向きに取り組んでいる職員が多いです。引き続き、教職員の学び続ける姿勢を大切にし、職員研修や指導主事による学校訪問支援の充実を図り、教職員の力量向上につなげます。

3 安全安心な学校づくりの推進

児童生徒質問紙と学校質問紙から、「いじめ・不登校の未然防止・早期対応」に関わるものを抽出して集計しました。

番号	質問事項	小学校	中学校
小(42) 中(46) 児童生徒	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	100 (101)	97 (98)
小(64-1) 中(72-1) 学校	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、不登校児童生徒に対する学習活動等の支援の用途で、どの程度活用していますか。(週3回以上を集計)	136	186

○自分の行動を振り返ったり、相手の気持ちを考えたりする活動を大切にして、気持ちや行動を自律的に調整し、誰もが安心して過ごせる学校づくりを目指します。

○ICT機器を活用し、全ての子どもたちに多様な学びの機会の確保を推進していきます。

4 GIGA スクール構想の推進

児童生徒質問紙と学校質問紙から「ICT 機器を活用した学習状況やICT 環境の整備」に関わるものを集計しました。

番号	質問事項	小学校	中学校
小(30) 中(34) 児童生徒	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか(肯定的な回答)	100 (99)	97 (97)
小(55) 中(63) 学校	前年度までに、一人一人に配備された・PC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか(週1回以上を集計)	97 (98)	94 (96)
小(57) 中(65) 学校	児童生徒が、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	95 (95)	103 (102)
小(53) 中(61) 学校	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	98 (104)	100 (106)
(16) 学校	ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)に取り組んでいますか	102 (101)	102 (102)

- 小学校と中学校ともに、ICT機器の効果的な活用を推進し、深い学びにつなげていきます。
- 中学校では、自分の考えをまとめ、発表・表現する場面でICT機器を用いる学習が増加傾向にあります。今後もICT機器を活用しながら、調べたり、友達との意見共有をしたりしながら、自分の考えをまとめ、発表する場面などを取り入れた授業を実施していきます。

5 学校間の連携、地域・家庭・事業所との協働と分担

学校質問紙から「学校間の連携、地域・家庭・事業所との協働と分担」に関わるものを集計しました。

番号	質問事項	小学校	中学校
小(67) 中(75)	前年度までに、近隣等の小学校(中学校)と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	104 (86)	94 (109)
小(70) 中(78)	職場見学や職場体験活動を行っていますか ※「行っている」回答を集計	112 (157)	123 (263)
小(71) 中(79)	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	107 (108)	110 (110)
小(72) 中(80)	保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	102 (106)	91 (113)
小(73) 中(81)	小(72)中(80)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか	108	130
小(74) 中(82)	コミュニティスクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	112	121

- コロナ禍の混乱により、数値が大きく変動している項目がありますが、昨年度に引き続き、多くの項目で、肯定的な回答の割合が全国比を上回っています。
- 学校、保護者、地域住民等が子どもの育ちについて共に話し合い、それぞれの役割を明らかにしながら協働・分担してきた成果だと考えられます。引き続き、開かれた学校づくりを目指し、地域、家庭、事業所との連携充実を図ります。

6 「第三期しなのきプラン」に照らした具体的な本年度の方向

重点取組

知・徳・体を一体的に育成

- 全国学力・学習状況調査やNRT等の分析を生かした指導改善の充実
- 学習支援ソフト等の効果的な利活用研究
- 教育センター研究委員によるICT機器利活用研究の推進

徳
知 体

教職員の力量向上

- 指導主事による学校訪問支援
- 子どもがICT機器を効果的に利活用できるようにするための研修の充実

力量

安全安心な学校づくりの推進

- 外部支援者との連携の充実

安心

GIGAスクール構想の推進

- ICTの環境整備とサポート体制の充実
- 不登校生が教室以外の居場所で学習を行える環境づくりと支援体制の充実

ギガ

学校間の連携、地域・家庭・事業所との協働と分担

- 長野市コミュニティスクール事業の推進

協働

IV 総括

教育を取り巻く社会的背景の変化、近年の自然災害や新型コロナウイルス感染症の拡大など、予測困難な時代が到来しています。

この激動の時代を生き抜くために、明日を拓く力である「自学自習の資質能力」の伸張を支援し、自ら問いをもち、自ら学びを進められる子どもの育成を目指します。

そのためにも、教師はこれまでの教育にとらわれず、改めて子どもを観る目や教育観を振り返り、子どもと対話をし、「自ら学び、自ら育つ環境」を整えていきます。

「自学自習の資質能力」の伸張のキーワード

★子どもを観る ★子どもの声を聴く ★子どもと対話する